

3学年通信

尾道市立高西中学校
3学年通信第15号
令和2年6月16日

15の春の姿を



広島県の平川教育長が示された「15の春の姿」をみなさんは知っていますか? 「広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」として、「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」を挙げておられます。

「自己を認識する力」とは、自分は何が好きなのか、自分はどのような人間なのかなど、自分自身のことを理解することができる力のことです。「自分の人生を選択する力」とは、自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる力、「表現する力」とは、自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる力」のことです。

A I等の発達により、社会が大きな変化を迎えようとしています。みなさんが大人になる頃の社会は「変化が激しく、予測不能な社会」といわれています。このような社会に必要な力として、ある企業では「変化の激しい社会の中に課題を見だし、チームで協力して解決する力」を挙げています。他にも「多様性を尊重し、文化を受け入れながら、価値観の異なる相手を相互理解する力」を挙げる企業もあります。つまり、様々な状況に応じて、臨機応変に対応していけるように、自分たちで議論し、課題を見つけ、新しい物を創り出したり、他の考えも受容しつつ、うまくまとめていったりすることが大切なのです。

他者を理解するためには、まずは自分自身を理解しなければなりません。これは文化においても同様です。また、臨機応変に対応していくためには、一人の考えではなく、複数の考えを組み合わせることも大切です。そのためには、さまざまな選択肢の中からよりよいものを選択したり、場に応じて相手意識を持って、自分の考えを伝えたりする力をつける必要があるのです。まさに、「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」ですね。

では、みなさん、高西中学校の「資質・能力」を思い出してください。教室前の掲示、授業の振り返り等で日々目にしていると思います。覚えていますか?

《高西中学校で育てたい資質・能力》

学習したことを活用できる生徒【知識・技能】

多様な学びをもとに自分の考えを表現できる生徒【思考力・判断力・表現力】

自他を認め、仲間と共に学び続ける生徒【主体性・協働性】

この「資質・能力」を改めて声に出して読んでみましょう。「資質・能力」が「変化が激しく、予測不能な社会」を生きるみなさんに必要だとされる力につながっていますね。日々の学校生活の中で、これらの力を伸ばしていこうとする意図はここにあるのです。

学校という場所は、社会への準備段階であるとともに、学校そのものがみなさん生徒や私たち先生、保護者の方、地域の方と構成される小さな社会ともいわれています。学校での学びが社会に出た時のみなさんの力につながっていくように、みなさんが学校という場所で、様々なことを学び、経験してきます。その中で得た「知識」を積み重ね、理解し、そして行動に移すことで「知恵」に変え、その「知恵」を出し合い、話し合いの中でよりよい解決策を見いだしていく—これが「資質・能力」を育て、社会で必要とされる力の土台を創っていきます。

みなさんが社会に出る頃、世の中がどうなっているのか—それは誰にも分かりません。しかし、今の世の中を考えてみてください。1年前、今のような状況になっていると誰が予測できたでしょうか。誰もが経験のない「新型コロナウイルス」との闘いに、多くの人が「知恵」を出し合い、よりよい策を考え、対応にあたっていますね。このように1年前には想像だにできなかった今の状況を考えると、きっとみなさんも「予測不能な社会」が少しイメージできると思います。

これからの社会に必要な力と、高西中学校で育成していく「資質・能力」のつながりを意識して、みなさん自身の「15の春」に向けて、一緒に頑張っていきましょう。

